



巻頭言

会長 徳光 正子



エリアミーティングも終り、ぼつぼつ梅雨のはじまる頃、対岸の大山木に白い花が咲く。めぐりゆく季節の移ろいに、心なしか感動している自分がある。頼りない会長職も会員の暖かいご協力と友情に支えられなんとか無事に一年が経過した。またなごやかに進行したエリアミーティングのワークショップでは、大阪IIの奉仕プロジェクトについて、活動報告もさせていただいた。お互いの役割と立場を尊重しながら無理をせず地道に活動を重ねることの意義も認識した。又、今までは余り縁のなかった他クラブの方々とも

親しくなれたことはとても嬉しかった。
みんなゾンタが好きなのだーと思った。

「変えられないものを受け入れる心の静けさと、変えられるものを変える勇気と、その両者を見分ける英知を与え給え」ラインホールド・ニーバーの祈りの言葉である。仕事も人生も、そしてゾンタ活動もかくありたいものと私も心から願っている。本当にありがとう。そして、これからもどうぞよろしくお願ひします。



国際ゾンタ26地区エリアⅣ 第6回エリアミーティング

2004年5月8日(土) 於名古屋 東急ホテル

今回のエリアミーティングは初めてのころみとして、1DAYトレーニングセミナーとして1日で行われ大阪Ⅱから9人も出席した。

ビジネスセッション

中塚 淳子



2004年5月8日(土)名古屋東急ホテルに於て開催された。14:00からのビジネスセッションでは、上田トクエエリアディレクターの開会宣言に始まり定足数確認、プログラムの承認、第5回エリアミーティングの議事録承認。2003年～2004年度エリアディレクターの活動報告ではアンケート集計結果の概要をスライドに写され、クラブの目標はどうあるべきか、目標は達成していると思うか等々の回答で今後のクラブ活動に大いに参考になりました。次に2003年～2004年のエリア費徴収について26地区費は、2004年～

2006年の暫定的にテンポラリーな徴収について、エリアの運営の為に十分な討論が行われました。最後に26地区運営について次期ガバナーである大賀恵美子さんの「ゾンタのメンバー相互の協力と親交を大切に皆が仲良く信頼を持って運営に当って行けるよう頑張りましょう」と挨拶されました。過去のトラブルを良い教訓に今後のゾンタの活動が皆で仲良く意義深いものになるように感じました。又、そうあらねばならないと思いました。



ワークショップ

西村 博子



共感から団結へーこころ響きあうゾンタをめざしてー

この数年のトラブルでゾンタクラブは会員が減りました。残された私達が正しいゾンタに戻さねばと、各クラブでは地道な奉仕活動が続けられています。“ほこらかに”“力強く”躍進するためにどうすれば良いか。ゾンタを愛しやさしい気持ちで心響きあうゾンタにとADよりの熱心な心響く提言から始ったワークショップでした。エリア4のアンケートの集計報告も現状の理解をさらに深め、各パネラーより四つのテーマに添った話題提供により、一人のゾンシャンとして原点をみつめ直す良い機会となりました。この学びを糧にしてさらに新しい出発が出来れば良いですね。各パネラーの報告は以下の通りです。

- (2) 会員増強 高松 内海久美子会員
 楽しい例会を基本にしてクラブ情報を全員で共有し、全員が役員で皆で動かす会であること、そして新入会員の例会へのお誘いをていねいにフォローすることに力を注いでいる。会員数は現在39人で50人前後になるよう毎年2名の新入会を目標にしている。はば広い職業別の会員をとということで現会員のネットワークを活用し、積極的に会員獲得できるよう友人や援助関係方面をあたっている。例会での話題づくり、メンバー一人一人の意識づくりは大切である。毎回全員の1分間スピーチを活用、丁寧な例会への誘い、楽しい例会の展開に心を配っている。エリア単位で新入会員を獲得した方を表彰する制度をぜひ作ってほしい。

- (1) 奉仕資金づくり 京都Ⅰ 山田宮英子会員
 組織として活動するために志を同じくする会員を募ること。その運営のための必要な資金づくりは会員からの寄附とチャリティイベント(バザー、コンサート、講演会など)の収益である。イベントに8割は満足しているが時間・労力のとられすぎ、マンネリ、新鮮さの点で不満足さもある。恒例のバザーは毎年1回開催し38回目を迎え、この収益が京都Ⅰの奉仕活動を支えている。1回の収益は少ないものの多くの人達の交流とゾンタのPRにつながっている。会員の半数は10年未満である。



ワークショップ パネラーの徳光会長

- (3) 奉仕プロジェクト 大阪Ⅱ 徳光正子会長
 自立した大人の会員の大阪Ⅱクラブ、無理なく楽しく奉仕をしようという基本精神で、活動の特色は①ゾンタらしいもの—チャリティイベント—1回目大石芳野さんに始まり大山捨松の久野明子さん、ジョルジュサンドの阪本千代さんら各界の女性を講演者に招いた。女性と健康シリーズでの健康講座、アジアのアーティストを招いてのコンサートも時の話題となった。各コンサートでは目の不自由な方たちも招待している。
 ②大阪にこだわる—10周年記念事業の紹介ならびに大阪の緑化への奉仕として大阪市の植樹に協力 ③移



動例会の活動—女性の地位委員会との連携 ④地味であっても自分らしいやり方で自分たちらしさのあるものを一人脈の活用を多いにしている。 ⑤寄附だけでなく自分たちの手で出来ることも—銭太鼓チームの奉仕活動紹介 ⑥会員の活用—仕事の専門分野を生かして会員がイベント、講演、卓語でも活躍。地域に根ざし、大阪の文化を守ろうという私達大阪Ⅱのこの10年の歩みを①～⑥までの視点で詳細に報告されました。徳光会長のスピーチのすばらしさも加わり、他クラブのゾンシャンの方たちから、特色ある私たち活動の豊富さに感嘆の声を聞きました。

- (4) 広報活動 奈良万葉 神田加津代会員
 地域での活動としてバザーの他、社会問題にしっかりと目を向け、橿原市図書館への図書寄贈、児童虐待とDV問題では行政に働きかけてシェルター基金の設置をした。行政と政治のかけはしとして、新聞などマスコミも多いに活用して行政への働きかけを積極的にしていく。社会問題のシンポジウムを開催し一般の人達と供に考えていく機会が大事である。女性の地位向上をしっかりと理解してすすみたいと結ばれた。

祝 宴

田中 淑子



新旧エリアディレクター交替伝達式での、上田トクエディレクターの流された涙が印象深く、ONE DAYミーティングの無事終了を感じました。

ほぼプログラム通りに進み最後の懇親会が始まった頃には、なにかしら皆さんの顔が晴々しく見えたのは、私だけではなかったのではないのでしょうか。懇親会に挨拶なさった上田トクエディレクターが“ボランティアとは、人を愛し、信頼し、心から相手を思いやる心が輝く基本ではないでしょうか。今一度初心にもどって考えましょう”とおっしゃい

ました。私はこの言葉に深くうなづき、納得しましたが、きっと多くの人達も同じだったように思います。

本当にスッキリとシンプルで気持ちの良いエリアミーティングでした。私は、8時頃には退席したのですが参加して良かった。徳光会長もワークショップでパネリストとして発言なさり、きっとホッとしている事だろうと色々思いながら充実感いっぱい帰路につきました。



大阪ⅠZ佐々木先生 上田会長を囲んで

「春はほのぼの…」
大阪Ⅱゾントクラブの皆さん、ありがとう

河村 さと子



040304 中央公会堂

Photo by Ken

春本番を控えた3月4日(木)、大阪市中央公会堂で行なわれたコンサートは500人ものお客様に大喜びで楽しんでいただくことができ、ほんとうに良かったと思います。

華やかなこと、楽しいことの裏にはたくさんのクリアすべき雑用、雑務が山積していますが、楽しく終えることができればとにかくすべて良し!なのです。私ども舞台の上の出演者はともかく、会場との打ち合わせと準備当日の運営等、大阪Ⅱゾントクラブの全員が素晴らしい行動力でこ

の企画を遂行して下さいました。やっぱりたのもしいスペシャルリスト集団であると再認識いたしました。スペシャルゲストの浜村淳さんやハーモニカのもり・けんさんも気持ち良く会場の雰囲気盛り立てて下さいました。コンサートが当日出席して下さいましたそれぞれの方々の胸に、幸せな記憶としていつまでもほのぼのと住みついていますようにと心より願っています。

チャリティーコンサートを終えて

萩原 謠子



3月4日、冬と春が行きつ戻りつしながら少しずつ春めいて行く、そんな早春の宵に大阪Ⅱゾントクラブ主催のチャリティーコンサートが行われました。

コート羽織って訪れた方々も、一步踏み入れた中之島中央公会堂の会場の中はもう春。春をたっぷり味わって頂こうと企画しました。

クラシック、ポピュラー、童謡、演歌などから春にちなんだ曲をプログラムに選びました。歌(河村さと子会員)、ハーモニカ(もり・けんさん)、ピアノ(萩原謠子会員)の織りなすハーモニーをたっぷり楽しんで頂きましたでしょうか。

司会では、浜村淳さんがプログラムに彩りを与えてくださり、進行にもメリハリが出来ました。

また、我がクラブが10周年記念に寄贈したピアノ、ベーゼンドルファの温かい音色も春を感じさせてくれました。

会場の方々も一緒に口ずさんで下さり、ホールいっぱい響いた歌声に喜びを感じました。

人それぞれ歌に寄せる思いは様々です。その曲を聴くと

あるシーンを思い出す、という思い出の曲もあるでしょうし、元気が出る、優しい気持ちになれる、音楽の持つ不思議な力を感じます。この日のコンサートが、そしてその中の何曲かが訪れた方々の心の中にいつまでも残って下さったら、それは演奏者としてはとても幸せなことです。

このコンサート開催のために、何度も会場に足を運んで打ち合わせや下見をして下さった会員の方々、当日の会場設定や、受付、来客の接待などいろいろと心を配って動いて下さった会員の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。





アメリア・イヤハートは1932年（35才の時）女性初の大西洋単独横断飛行に成功し、「アメリカ合衆国空軍殊勲十字章」を女性で初めて受賞しています。彼女の勇気と人柄と教養を称え、国際ゾンタでは1月11日を「アメリア・イヤハートデー」と定め、毎年航空宇宙関連の学問や技術の研究に従事する女性（国籍を問わず）に奨学金を授与しています。

アメリア・イヤハートは1897年カンザスで生まれました。0才の時初めて飛行機を見る機会があり、20才の時曲芸飛行を見て航空学に興味を持ったと云われています。米国航空局（FAI）で操縦免許を取った女性パイロット第1号でありルーズベルト大統領夫人（エレナ・ルーズベルト）にも飛行機操縦を教えています。1937年（40才の時）世界一周飛行中（ニューギニアからホランド島へ向う途中）行方不明となりました。米国政府は彼女の捜索に400万ドルを費し、当時としては海と空に集中した捜索の史上最高額と云われています。

少し余談になりますが昨年2003年はライト兄弟が初飛行をして丁度100年目に当たりました。1937年アメリアが行

方不明になった年にライト兄弟はアメリアに出会っています。1927年にはチャールズ・リンドバーグ（1902年—1974年）が大西洋単独横断無着陸飛行（ニューヨーク→パリ）に成功しました。アメリアが女性初の大西洋飛行する5年前のことなのです。アメリアの風貌がリンドバーグに似ていたことから、彼女はLady Lindyと親しみを込めて呼ばれていたそうです。1969年アポロが月面着陸したことも考えると航空学の20世紀における進歩たるや目を見張るばかりです。

アメリアは1928年から行方不明となる1937年までボストンとニューヨークのゾンタクラブの会員でした。彼女を記念して制定された奨学金制度は、1938年以来約\$400万（1名当り\$6,000—）51カ国で延べ800名分給付されています。この奨学金は全世界の高い能力を持った女性達に主に男性に支配されていた分野に進出し、地位が改善されるために役立っています。女性に新しい職業を開拓し、従来より高い地位に就くことによりその視野を広げようと励ましたアメリア・イヤハートの精神は、奨学金制度を通じて今でも生きています。

移動例会 錦水亭

川村 くに



新緑が目にしめる美しい季節の五月七日。移動例会（第117回例会）が長岡天神の錦水亭で行われました。

長岡天満宮とは、祭神は菅原道真で公が太宰府へ左遷された時、供をしたこの地方出身の旧臣が、後年祠をたてて公の霊を祭ったのがその最初と伝えられる。境内の八城ヶ池のきりしまつつじは有名である。その日もきりしまつつじは真紅の花で池の全周をとり囲むように咲いていた。

錦水亭はこの八城ヶ池と隣接している。平安京より東京遷都の頃、天皇と東都に行った宮、公卿、華族の方々が京の味をなつかしんで立ち寄ったのを初代亭主が竹の子を調理し食膳に饗したのが始まりで今までつづいている料亭である。

二時半から私達も竹の子のフルコースをいただいた。オード

ブルは竹の子の木の芽合せ、次で竹の子造り、若竹すまし汁田楽、焼竹（竹の子のステーキ）と竹の子づくしであるが飽きることはない。サククリとした歯ざわり、その上えぐ味が全々ない。さすがと感心した。多分朝掘りの新鮮な竹の子だからだろう。遅いお晝をしっかりといただいて、牛田副会長の議長で例会を行い、チャリティイベントについて話し合いました。



ネパールの子供を育てる会の活動支援

内藤 恵子



3月4日のチャリティーコンサートの会場で、私が理事をしている“ネパールの子供を育てる会”の活動にご理解を頂き、セーター販売をさせて頂きました。ネパールの孤児院でニット編み職業訓練として女子に手編みのセーターを教え、そのセーターを日本で販売して、編んだ子にお金をあげ孤児院を出ていくときまで積み立てています。年々上達していますが、販売する機会に恵まれません。今回、皆様にお買いあげ頂き、早速送金しました。当日は、ネパールの子供を育てる会の会長、理事2人、会員2人と手伝いに来て下さいました。あいにくな天候でしたが、沢山の人で、

セーター売り場もごった返していました。展示したネパールの写真を見て、売って欲しいと言われ吃驚しました。ネパールの子供達の澄んだ目は見た人を引きつけずにおきません。今回、セーター46枚、マフラー1組、総計162500円の売り上げがありました。4月28日から今年の無料診療事業に行つて来ます。今回は、大阪東南ロータリー、西淀ロータリー、のかたも植樹や学校の認定式にこられ3班に分かれて行動します。24名で行くのでカトマンズから2台の飛行機（14人乗り）がいります。また帰国後、ネパールの現状報告します。



平成16年5月4日

私達、大阪II ゾンタクラブのソムクラブである大阪I ゾンタクラブが平成16年5月4日に、めでたく設立40周年をお迎えになられ、しかも、記念式典を当記念日に、中ノ島リーガロイヤルホテルにて開催をなさる事となりました。当クラブからは、11名が出席しました。ゴールデンウィークの最中にも拘わらず、全国から約550人も、一クラブの設立記念会と致しましては、異例というべき多数の方々が、お集まりになりました。式典は午後2:00から、巨大シャンデリアの輝くロイヤルホールで行われました。太田大阪府知事・大平大阪市助役と、大阪における女性の行政の先駆者のご祝辞や、ゾンタ関係者としてディレクター・ガバナーのご挨拶、クラブの功労者でいらっしゃる佐々木先生の今日までの輝かしい大阪I ゾンタクラブの歩みについてのお話が、ありました。その後、40周年記念の奇贈の授与式がありました。奇贈は驚くほど多岐に亘り、大阪I ゾンタクラブの社会貢献の深さを、改めて感じさせられるものでした。なかでも、大阪城天守閣の虎のレリーのレプリカは各マスコミにも取り上げられ、大阪城歴史博物館にて、今後長く市民に親しまれる事となりました。更に、DV駆け込みセンターをDVが社会問題化される以前から支援なさっておられた事をはじめ女性の為の、弱者救済支援、自立支援、社会活動支援を長きに亘り行っておられ、社会福祉にも尽力を尽

くされてこられた事に誠に感銘をうけました。

次に、文楽が特別に祝典の催しとして演じられました。国立文楽劇場からの出向公演で、演者は人間国宝の吉田蓑助氏をはじめ、氏が率いる錚々たるメンバーによる人形浄瑠璃が演ぜられました。生きている人間以上に、喜怒哀楽や情感が体温として観客に伝わる、伝統の至芸を見せて頂きました。

続いての、祝典は杜若の緞帳の華やかな光琳の間で行われました。高価なグラスが並ぶ中、和やかで楽しい宴席が催され、御臨席の方々も歓談が進み時間の経つのも忘れがちでした。

飛び入りで、当大阪II ゾンタクラブの河村さと子様がお祝いに、その容姿と共にこの上なくお美しいソプラノで、5月に因んだお歌を、御贈り下さり、満場の喝采を集められ、お陰様で、私たち当クラブメンバーも誇らしく嬉しい思いをさせて頂きました。最後は大阪I ゾンタクラブの皆様方のお見送りを受けて会場を後にさせて頂きました。



こんびら歌舞伎ツアー

牛田 三千子



4月3日花曇りの土曜日、新大阪駅に大阪II ゾンタクラブの旅行大好きメンバー6人が集合しました。リーダーは今回もちろん田中茂美さん。以下川村、丸山、内藤、久岡、久岡（お母様）、牛田のにぎやかなメンバーで、気分はすっかり女子中学生。

今回行く琴平の金丸座は、日本最古の芝居小屋で、江戸時代に建てられ170年の歴史を持っています。この歌舞伎のルーツといわれる香川県のこの場所で、わずか桜の季節だけ歌舞伎が上演されます。私達は去年から、田中さんにこの公演を見る小旅行の企画をお願いし楽しみにしていました。入手が難しいといわれるチケットですが田中さんのご手配で金丸座の初日の客席に座ることができました。客席といっても、現代のようなイスではなく床に座って肩と肩がふれあうような人の近さで、昔の観客はこういう風に芝居を楽しんでいたのだと感心しました。

先年琴平町が金丸座の耐震補強工事のため調べたところ「かけすじ」という江戸時代の演出装置のあとが見つかり、今年はじめてこれを復元お目見えとなりました。この仕掛けによって、中村魁春さん演ずる天女が、優雅な空中の舞を披露し満員の観客のどよめきを誘っていました。

この日の桜はまさに満開。金丸座とこれを取り巻く満開のさくらは絵巻物を見るような美しさで、私達は大いに「日本の春」を満喫しました。

観劇後は金丸座のすぐ近くにある「琴平グランドホテル桜の抄」に戻り、ゆっくり温泉につかりご馳走をよばれて日頃のストレスを解消しました。

翌日の日曜日はあいにくの雨。しかし有志数人は千段近い金比羅参りの階段を上りました。なんとか上がったものの下りるときは雨にぬれた石の階段がすべりそうでへっぴり腰になっておそろおそろ下りる始末でした。「行きはよいよい帰りは怖い」とはこのことでしょうか。

香川県を訪れたからには讃岐うどんを食べないわけにはいきません。タクシーの運転手さんのお薦めのお店はものすごく庶民的なところ。入店待ちの人がたくさん並んでいる人気のお店で、しこしことこしのある麺は、さすが本場の美味しさでした。それに信じられないくらい安いのです。讃岐うどんは今全国的なブームですが、本場で食べるとひと味もふた味も違うと感じるのは気のせいでしょうか。胃袋のほうも大いに満足してようやく帰路につきました。

帰宅してその日（日曜日）の朝刊を見ると、第一面に昨日の金比羅歌舞伎初日のカラー写真とその花道の横で手をたたいている私の後ろ姿が写ってありました。

次回は秋に佐賀県「陶芸ツアー」が計画されています。これも今から楽しみ・・・。



時空を超え 天女舞う

香川県の琴平町にある金丸座。江戸時代の仕掛け復元した。要出陣で、金丸座の重宝を文藝に活用し、金丸座の歴史を伝える「かけすじ」という江戸時代の演出装置が復元された。金丸座は、香川県の歴史を伝える「かけすじ」という江戸時代の演出装置が復元された。金丸座は、香川県の歴史を伝える「かけすじ」という江戸時代の演出装置が復元された。金丸座は、香川県の歴史を伝える「かけすじ」という江戸時代の演出装置が復元された。



西先生と一緒にハワイ旅行

2003年2月18日～26日

閑電病院を退職された西麗子先生が、新しい仕事を始める迄の短い期間、まとまった休みがとれるというので御一緒に旅行した。寒がりの西さんなので行先はハワイにした。

私の夫純之は、快く行って来たらいい、彼のマイルで飛行機をアップグレードしたらいいと云うが、この春から会社を離れ、自費で海外へ行くことになる彼のことを考えると、マイルは大切にしなければならぬ。片道だけでもらうことにした。息子からホテル券をもらい、ワイキキテラスとニューオータニを行き帰りに2泊ずつ予約した。

年寄り2人と働いている主人を放っておいてハワイなんかには遊びに行くには、忙しかった西先生の退職慰労と充電のお付き合いは格好の名目である。母曰く“博士二人のハワイ行き！！”。それにしても1と月後、あのようなことが起こるとはつゆ知らず、、、。

待合せの夜8時、閑空に着くと早速西先生から携帯に電話、今どこ？ここよ、見るとインフォメーションの前に大きなトランク、定番の皮コートを片手に、花のついた麦藁帽子をかぶった西さんがニコニコして立っていた。

ビジネスクラスの彼女と分れ、行ったエコノミーの2階席は然し下より更に狭いような気がした。が、私は独りのフライトは大好き、本を読み、少し眠り、映画を見、クラシックを聞いて瞬間に着いてしまった。

ワイキキ

2年ぶりのハワイは、暖かく爽やかな風が吹き美しく晴れている。ワイキキエクスプレスでホテルへ、散歩しながらなつかしいハレクラニへゆく。テラスでゆっくり朝食。ビーチに1本、アカシアのような葉の大きな樹があり風に揺れている。ヤシの樹も風に吹かれている。まさにハワイ。ビーチを歩いてヒルトンへ、2年前ここでゾンタの大会があった。早速ムウムウやバッグを買ってしまった。西さんもブラウスやヴィトンのバッグを、いつもこんなに買う？と聞くと、買い物に行く機会がないもん。忙しかったね。帰って入浴後チボーで夕食。量が多すぎ二人で一つにすれば良かったねと悔やむ。帰り又お土産屋をのぞきミニチュアのミシンのついた小箱やブローチを見つける。西さんも可愛いビーチスリッパを見つけている。先日迄10周年記念誌と一緒に作っていた西村さんと徳光さんにブローチを買った。大通りは12時まで人が沢山いるがショッピングセンターの上の階や裏の方は淋しくて怖い。

2日目再びハレクラニで朝食。ハワイ大学へバスで行く。広いキャンパスに大きな樹、ネームプレートがある。Ear pod, Monkey podはハワイでよく見る大きな木で果実が耳のような形をしたもの、細長いもの。それで名前がついたらしい。ハレクラニにあったのはMonkey podだ、学内の本屋で教科書などをみる。日本と変わらないが種類は少ない。Academy of Artsへ、2月で花は少ないがブーゲンビリアやアフリカンチューリップツリーと云う赤や黄の花をつけた木が美しい。

マウイ島

2月20日マウイ島へ飛ぶ。空港で西さんのお知り合いのアメリカ人に会う。これから其処へ泊めて頂く。ドアのハンドルの壊れたすごいトラックに三人で乗る。西さんはこんな車に

乗ったの初めてじゃないかしら。車のドアは壊れていても彼はとても優しく親切、そしてすることが的確。此の車でどこ迄もつれて行って下さった。昼御飯に街のレストランに行く。壁の絵や家具、食器類、お料理もとても気持ちの良い所。正にアメリカの田舎と云う感じのお店。町の名はハイクという。覚えやすいでしょうと彼が云う。ハイクは、海に向かった大きな斜面にあり小さな町だが、立派なオーガニックスーパーマーケットもあり緑が多い。

彼の家は入口にパパイヤの木があり実がなっている。猫が4匹。網戸を入れて私達の寝床を作ってくれた。作りかけの庭にはオレンジ、アボガド、ココナッツ、マカダミアナッツ、レモン、グレープフルーツ、ヤシの木が植わっている。午後、辺りを見物にゆく。大きなパイナップル畑があるが農薬を沢山使っているから側へ行かない方がいいと彼は云う。ガラス工芸、木工などの作品を作って売っている所も案内してくれる。木目の美しい椅子やテーブル小物など、モンキーポッドの木で作ったそう。さとうきび畑の真中に寂れた砂糖工場があった。なんだか50年代のハリウッドの書き割りのようだった。もう使っていない側面に砂糖ミュージアムができていた。

21日は起きたら雨。それなら水族館に行こうと出かける。海辺に行き着く頃には晴れて来た。マウイ島はよく天気が変わる。さーっと雨が降ってすぐ上がり、海の上に大きな虹が出る。ホエールウォッチングを予約し2時半から海に出る。優に100人位乗れる大きな筏のような船にベンチが並んでいて階段状の客席の裏には飲み物や鯨関係のTシャツなどを売っている。海から見た険しい山の風景も美しい。女性鯨研究者の説明があった。今の時期、アラスカ沖から子供を生みに回遊してくるそう。お互いに話し合う鯨の声（歌）はメロディが年によって違うそう。何度も鯨が跳ねているのが見られ、ラッキーだった。夕方、ママズフィッシャーズハウスという有名なレストランへくり出して食事。レストランは海辺の木のつるとヤシの葉でできたコテージ風の所で、待っている間、近くの海岸にゆくと美しい珊瑚のかけらや貝が散らばっていた。大きな葉の上に盛り付けられたハワイの魚料理は大変美味しかった。星が手にとるように見え、とても美しい。

22日朝3時に起きコーヒーとお弁当を持って車でハレアカラ山に行く。3000m。頂上はほとんど0度でとても寒い。ありったけのものを着込んでいったが彼のズボン下、セーターとパーカーを借りてさらに着込み日の出を待った。明るくなって見えて来た辺りの景色は素晴らしかった。大小の無数のクレーターが連なり、その向こうに広がった海にはハワイ島が煙を



あげているのが見えた。頂上一帯は国立公園で軍の施設もありきびしく立ち入りが制限されているがマウンテンバイク（自転車）でここから一気にのぼるスポーツをする人たちが次々にやって来ておりにいった。みなとても行儀よく規律正しく気持ち良い。日が上るにつれ暑くなった。Silverswordsという珍しい植物や高山植物がみられた。帰りにHali' imaille?というアメリカンスタイルのレストランにいった。ブーゲンビリア、ハイビスカスをはじめ、香り高いプレニア、クリスマスベリーの赤い実、“Sexy pink”という美しい花（大形のヨウラクの様な）、色とりどりのジンジャー、パッションフルーツ、バナナなど熱帯植物一杯の庭を散歩した。

次の日友人ビッキーさんの家へ連れて行っていただく。ビッキーさんは私の好きなバネッサ、レッドグレープのような感じの人で御主人はフットボールの試合に行き留守。住みはじめて7年目だが今は台所と居間を作っている最中でガレージを台所にしている。広い空間に果物や野菜、花をいっぱい飾り、カントリー風の部屋になっている。40cmほどのフェンスはアヒルよけだそう。アヒルは10匹ほど、自由に遊んでいる。猫も犬もいる。ハワイはのら猫が多い、皆が連れて来て飼っていて猫は家につくので帰ったら残ってしまい子供を生むからだそう。庭は一面びっしりとクローバーのような草で覆われている。プレニア？ピーナッツと云う草でこれがあると雑草が生えないのだそう。そこにライム、アボガド、オレンジ、グレープフルーツ、パパイヤなどが沢山なっている。バナナもあった。パッションフルーツ、グアバ、パンの木もあり、初めて実を割って食べてみた。ビッキーさんは、はだしでどこでも行く。花や野菜も少し作っていて、家で売ったり、オーガニックの店に出したりしてるらしい。西さんの友人はバナナを沢山買った（彼はそれを専用の乾燥機で乾かした）。オーガニックのコーヒーを作っている人の所へも行った。近くの谷の中で大きな家があり大きな犬がいる。コーヒーの木

を初めてみた。このコーヒーは少し高いが美味しいと有名だそう。丁度分けてもらえて良いお土産になった。夕方の飛行機でワイキキに戻る。テロ対策で時間がかかる。

ダイヤモンドヘッド

次の日西さんの提案で、ダイヤモンドヘッドに登る。暗いトンネルを階段で100段以上も上がるというので、安全を心配したが、人が沢山行っていてバスが満員になる位。ワイキキの反対側からダイヤモンドヘッド帯に入るとそこは植生がずいぶん違う。乾燥して暑い。アカシアのような針を持った木が多い。頭が真っ赤の美しい珍しい鳥達や大きな蝶が見られた。クレーターの縁から中をひたすら歩く。その先のクレーターの先端がいわゆるダイヤモンドヘッドで砲台があった。其処からの海の眺めは素晴らしい。行って見ないとこれは味わえません。買物に行く西さんと分れ、公園を横切ってホテルに戻る。バンヤン、クアウ、モンキーポッド、ゴールデンツリーなど大きな木が芝生にあって影を落としている。ホテルにもどりヤシの葉のさやさや云う音を聞きながらハワイ最後の夕日を見た。（ワイキキの海岸は毎日夜の内に手入れをしている。車で掃除、地ならし。）

西先生と旅をしたのは初めてではない。前から分かっていたことだが彼女の優れた決断力、聡明性、活動性には私は随分助けられた。海外、特にアメリカでは、チップの習慣が深く根をおろしており我々には煩わしかったりうっかりして気の毒な事態を起こしたりしがちだが彼女はその点、いつもよく気がついて私はずっと助かった。又どこへ行くにもきちんと調べて時間が正確でとても快適に旅が出来た。お酒も飲むし。良く歩くし。私はよかったけど彼女はどうかだったかしら。宮本さんは遅くて参ったと思っているかも知れないけど。

2004,5,28記

予告



大阪Ⅱゾンタクラブ チャリティーイベント

◆2004年10月2日(土)

12時30分～

◆大阪市中央公会堂(中之島)

大阪市北区中之島1-1-27

地下鉄御堂筋線「淀屋橋」・京阪電鉄「淀屋橋」下車

◆チャリティー会費 8,000円



編集後記

2004年5月13日ベラコスタでの総会が終り、新年度に入り時間の余裕のない中で、沢山の原稿を寄せて頂きまして有りがとうございました。慣れない私の不手際も色々あると思いますが期日に間に合い会報を出せた事に御礼申し上げます。

この半年間の原稿を見ますとエリア・ミーティング、チャリティーコンサート、新年会、移動例会等、色々の行事がありましたが大阪Ⅱゾンタは「いいなー」とつくづく思っております。

大阪Ⅱゾンタクラブ 2004年7月末日
2003～2004年 広報委員長
笠置 伸子